

環境・障害者福祉・財布にうれしい

「一石三鳥」バイオ燃料



つばさ学園の車にバイオディーゼル燃料を給油する正平さん(左)と山下さん(福岡県嘉麻市)で

福岡県嘉麻市の知的障害者入所更生施設「つばさ学園」(因幡宏園長、入所者50人)が食用油の廃油を再利用したバイオディーゼル燃料づくりに取り組んでいる。操業開始から10カ月、地球環境への関心の高まりや原油高を受けて好評だ。市が公用車の燃料として採用したほか、地域の民間会社や市民も購入するなど利用が広がっている。

(桑原紀彦)

嘉麻・つばさ学園 廃油再利用

障害者に働く機会を与えることができないかと因幡園長らが考えていた06年秋、バイオディーゼル燃料製造装置のセルスマンが学園を訪ねてきた。植物性油を精製して燃料にリサイクルでき、燃焼時に排出される黒煙は軽油の3分の1以下という説明を受け、検討の末に導入を決めた。07年2月に約300万円で装置を購入。2カ月後、廃油の回収と燃料の製造・販売を始めた。担当は職員と入所者の計4人。市内の小中学校や高齢者施設、隣の飯塚市の高校など約50カ所の協力を得て、1カ月で2500リットルの廃油を集める。装置稼働は週5日で、1日あたり乗用車2台のタンクを満たす約95リットルの燃料を製造する。

操業当初、利用は学園の車2台と嘉麻市のごみ収集車1台だけ。軽油に比べて加速が遅く感じるが、通常走行に支障はなく、徐々に利用者が増えてきた。現在は市の給食配送車2台、運送会社のトラック1台、市民の車など計12台に供給する。販売価格は1リットル90円。石油情報センターによると、今月4日現在で福岡県内の給油所の軽油価格より40円ほど安い。嘉麻市環境課は「環境にやさしく、単価が安い。今後も公用車への採用を検討したい」という。月間1200〜1300リットルを販売し、若干の赤字になっているという。学園職員の正平庄一さん(34)は「もっと利用者が多くなれば設備も増強したい。携わる入所者を増やしたい。ただ、装置が高額なので、自治体からの補助金もほしい」。入所者の山下好信さん(58)は「楽しみながら販売していきたい」と話している。問い合わせはつばさ学園(0948・62・5500)へ。

原油高追い風 増える利用者